# 協　働　評　価　シ　ー　ト

| 事業名 | おさかなふれあい体験事業 | | 実施年度 | 平成22年度 |
|---|---|---|---|---|
| 部　局 | 経済部 | 課　所 | 農林水産課 | |
| 団体等の名称 | 新居浜市おもちゃ図書館きしゃポッポ | | | |

| 評価項目 | | | 評価者 | 評価 | 左の評価の説明 |
|---|---|---|---|---|---|
| 相互理解 | それぞれの特性や立場を理解し合えたか | お互いの特性や立場を十分に認識、尊重して、事業を実施することができたかどうかを評価。 | 団体等 | A | 市の担当者と連絡を取りながら進めることができた。 |
| | | | 市 | A | 事業を実施するにあたり、実施団体の要望を聞き取り、団体の設立の目的も認識しながら実施することができた。 |
| | | | 相互協議結果 | お互いの立場を尊重することができた。 | |
| 対等 | 双方が対等の立場に立っていたか | 対等な立場で協議、事業実施ができたかどうかを評価。 | 団体等 | A | 自分たちの特技を生かし、事業を実施することができた。 |
| | | | 市 | A | 対等な立場で実施することができた。 |
| | | | 相互協議結果 | 対等な立場で事業が実施できた。 | |
| 自主 | 市民の自主的な活動が尊重されたか | 自主的活動を十分に活かして事業効果を増加させたかどうかを評価。 | 団体等 | A | 団体の得意の分野である手づくりのおもちゃ作成に自主的に取り組めたと思う。 |
| | | | 市 | A | 事業の実施内容は実施団体の自主性にまかせ、また、実施団体の独自のアイディアも盛り込むことができたので事業効果は増加し、自主性も確保された。 |
| | | | 相互協議結果 | 自主性が十分に発揮できた。 | |
| 自立 | 市民の自立化を阻害しなかったか | 依存体質が助長されるなど、市民の自立化が阻害されることがなかったかどうかを評価。（新たな自発的事業展開につながり自立化が進んだ場合はＡ評価） | 団体等 | A | おもちゃの材料費用等に市より若干の資金の提供は受けたものの、自立・自主の意思を持ち、やりとげることができた。 |
| | | | 市 | A | 自立化を阻害することなく、事業を実施することができた。 |
| | | | 相互協議結果 | 事業を実施する過程で自立化を進めることができた。 | |
| 目的共有 | 双方が協働事業の目的を共有できたか | 協働事業の目的は十分に共有して事業実施ができたかどうかを評価。 | 団体等 | A | 団体の活動日には市の担当者も準備作業に参加していただき、作業の中で目的を共有できた。 |
| | | | 市 | A | ベストな実施方法を模索していく中で、お互いの意思疎通を密に行ない、役割分担を確認し事業実施できた。 |
| | | | 相互協議結果 | 常に目的を共有することができた。 | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 情報共有 | 双方がお互いの情報を共有できたか | 情報を十分に共有しながら事業実施ができたかどうかを評価。 | 団体等 | A | 共有できた。 |
| | | | 市 | A | 相互の活動拠点に頻繁に足を運び、会話の中で情報を共有できた。 |
| | | | 相互協議結果 | 情報を共有しながら事業を実施することができた。 | |
| 公開 | 双方の関係を十分に公開できたか | 全て公開され、利便性も高いかどうかを評価。 | 団体等 | A | 新聞、テレビでも報道され、まちづくり協働オフィスの機関紙にも掲載された。 |
| | | | 市 | A | ホームページに掲載し、ケーブルテレビ、新聞報道等もなされたので十分に公開できた。 |
| | | | 相互協議結果 | マスコミを通じて十分に公開することができた。 | |
| 「相乗効果」が発揮され、独自で行うよりも効果的と認められるか | | 「相乗効果」が十分に発揮され、協働が効果的と認められるかどうかを評価。 | 団体等 | A | 市の担当者とも密接に連絡を取り合い、相乗効果を発揮できた。 |
| | | | 市 | A | お互いの苦手分野をカバーしあうことができたので相乗効果が発揮できた。 |
| | | | 相互協議結果 | 実施団体と市の相互のノウハウを出し合い、相乗効果を発揮することができた。 | |
| 市民の関心や参画意欲を引き出す事業展開がされたのか、 | | 十分に市民の関心や参画意欲を引き出す事業展開がされたかどうかを評価。 | 団体等 | A | 市民の関心は引くことができたと思われる。魚に興味を持ってもらうためには今後も継続して事業を実施することが必要と感じる。 |
| | | | 市 | B | 実施先の施設の反応は良好であるものの、実施内容は実施団体と市で提示したものであるので、参画意欲を引き出すには至っていない。 |
| | | | 相互協議結果 | 事業の実施先の施設は受け身の立場であり、どのように参画意欲を引き出すか課題が残った。 | |

事業の目的､目標が達成されたか、どのような成果があったか等（自由記述）

| | |
|---|---|
| 団体等 | 鮮魚の入手に関しては農林水産課に窓口になってもらい、自分たちは手づくりおもちゃ（タペストリ-の水族館、実物大の魚、カルタ等）の作成・イベントの実施に専念した。子どもたちが海や魚について親しみながら学習し触れあう事業を合計５施設の幼稚園・保育園で実施できた。荷物の運搬等に市の協力を得ることができ、充実した活動ができたというのが実感である。 |
| 市 | 試行錯誤をしながらの実施であったが、実施先の施設の子どもたちが楽しそうに遊んでいるのをみると、事業の内容の方向性については間違っていないと確信できる。今回の「おさかなふれあい体験事業」は成果が数値化できるものではないので、達成度は明示できないが、イベントに参加した子どもたちの反応から、遊びの中で魚に親しみを持つという当初の目的は達成されたと思われる。 |
| 相互協議結果 | 「子どもたちが魚に親しみを持つことができる場を提供する。」という当初の目的を達成することができた。今後はさらに内容を精査し、事業効果があがる手法を探りたい。 |